

| | |
|---------|------------------------------|
| 氏名 | 柳沢 志津子 (ヤナギサワ シズコ) |
| 本籍 | 長野県 |
| 学位の種類 | 博士 (老年学) |
| 学位の番号 | 博乙第13号 |
| 学位授与の日付 | 2016年3月15日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第2項該当 |
| 学位論文題目 | 企業退職男性高齢者における地域組織への参加・継続プロセス |

| | | |
|--------|--------------|-------|
| 論文審査委員 | (主査) 桜美林大学教授 | 白澤 政和 |
| | (副査) 桜美林大学教授 | 杉澤 秀博 |
| | 桜美林大学特任教授 | 直井 道子 |
| | 淑徳大学特任教授 | 秋元 樹 |

論文審査報告書

論文目次

| | | |
|----------------------------|-------|---|
| 緒言 | ----- | 1 |
| 第1章 先行研究 | ----- | 1 |
| 1. 本章の課題 | | |
| 2. 高齢者の地域組織への参加と活動継続に関する研究 | | |
| 3. 企業退職高齢者の地域組織への参加に関する研究 | | |
| 4. 参加する場としての地域組織の特徴に関する研究 | | |
| 5. 先行研究で残された課題と本研究の独創的な点 | | |

| | |
|--|----|
| 第2章 研究の課題 | 8 |
| 1. 本研究の課題 | |
| 2. 期待される成果 | |
| 第3章 男性無職高齢者の参加する組織のメンバー特性に関する量的分析： 帰属組織のメンバーの同質性・異質性に着目する理由 | 13 |
| 1. 研究背景 | |
| 2. 研究方法 | |
| 3. 結果 | |
| 4. 考察 | |
| 第4章 同質的な参加者のみで構成される組織への参加と活動継続 | 20 |
| 1. 対象組織 | |
| 2. 研究方法 | |
| 3. 結果 | |
| 4. 考察 | |
| 第5章 異質な参加者で構成される組織への参加と活動継続 | 34 |
| 1. 対象組織 | |
| 2. 研究方法 | |
| 3. 結果 | |
| 4. 考察 | |
| 第6章 総合考察 | 46 |
| 1. 総合考察の課題 | |
| 2. 企業退職男性高齢者における地域組織への参加と活動継続：結果の要約 | |
| 3. 組織のメンバー特性が同質，異質の場合の組織戦略の共通点 | |
| 4. 組織のメンバー特性の違いを反映した組織戦略の差異 | |
| 5. 地域組織に対する地域の社会支援の影響 | |
| 6. 研究の限界，今後の方向性 | |
| 謝辞 | 52 |
| 文献 | 53 |
| 資料 | 58 |
| 1. 資料1：「地域活動と健康に関する調査」調査票 | |
| 2. 資料2：「企業退職男性高齢者における地域組織への参加・継続プロセス」 インタビューガイド | |

3. 資料3：「同質的な参加者のみで構成される組織」ワークシート
4. 資料4：「異質な参加者で構成される組織」ワークシート

論 文 要 旨

本申請論文は、企業退職男性高齢者が地域組織への参加・継続する過程についての研究である。論文は6章構成で、第1章で先行研究、第2章で研究課題の整理を行い、第3章で高齢者が参加する組織メンバーの特徴についての量的分析、第4章で同質的な参加者で構成される組織への参加・継続プロセスについての質的研究、第5章で異質な参加者で構成される組織への参加・継続プロセスについての質的研究、第6章で、論文全体についての総合考察となっている。

第1章では、先行研究により、高齢者の社会参加への参加・不参加要因を、個人属性、社会階層、社会心理、地域特性から分類し、他方、参加する組織の同類性に着目して参加の特徴を整理している。

第2章では、本研究で検証する研究課題を5つ提示している。それらは、①男性高齢者が参加する地域組織の参加メンバー特徴、②組織に参加者を留める組織戦略、③参加者の参加継続プロセス、④組織戦略と参加継続意識の関係、⑤組織を構成する参加者の性質の違いの影響、である。

第3章では、桜美林大学加齢発達研究所が実施した「地域活動と健康に関する調査」のデータを用い、地域組織を「地縁組織」「生活充実型組織」「問題解決型組織」「その他組織」に分け、男性無職高齢者が帰属する組織への参加状況とメンバー特性（性別、年齢層、学歴層の同質性）を、またメンバー特性の同質性に関連する個人要因を明らかにしている。調査は、二段抽出法で抽出した1万2千人（有効回収数4676、回収率39%）を対象に、2010年9月に実施した調査をもとに分析している。その結果、男性高齢者は同年代や同職種の関係を求めるとの先行研究を支持する結果となり、生活充実型組織では、組織の人間関係（メンバーの同質性・異質性）が地域組織への定着化を図るうえで重要な要因であることを示した。

第4章では、都内で活動する男性だけの料理サークルを対象組織として、同質的組織における①組織戦略、②個人の参加継続プロセス、③戦略と個人の意識の関係を解明している。ここでは、創設関係者に対する「参加者を組織に留める戦略」に関する面接と、参加者に対する「地域組織への参加継続」についての面接を行い、両者の調査結果を合わせることで、組織戦略が参加動機や意識に影響していることを明らかにしている。

第5章では、都内で活動する高齢者なら誰でも自由に参加できるウォーキングサークルを対象組織にし、異質的組織における①組織戦略、②個人の参加継続プロセス、③戦略と個人の意識の関係を解明している。研究方法は第4章と同じで2つの対象者に対する質的調査を実施し、ここでも組織戦略が個人の参加動機・活動意識に影響をおよぼすことが実

証している。

総合討論として、生活充実型組織は同類結合へ対応することで、男性高齢者の地域組織への定着化に有効であることを示唆している。また、同質的組織と異質的組織の違いについて、前者は参加者の欲求に組織戦略をすりあわせていく方針が、参加者の仲間意識を強化し、活動に対する満足につながり、参加・継続意識に影響を与えているが、後者は組織が活動目的や活動方法を明確に示し、参加者の態度や人間関係に関する選択肢を用意することで、参加者が用意された役割に意識や態度をすり合わせた「適合」が行われ、参加・継続意識が醸成されることを明らかにしている。以上から、企業退職男性高齢者における地域組織への参加・継続には、組織戦略が重要であることを示した。

論文審査要旨

本申請論文は企業退職男性高齢者の地域組織への参加・継続のプロセスを明らかにすることにあるが、最大のオリジナリティは個人の参加・継続要因と地域組織の戦略をマッチングさせ分析したことであり、ここから、組織の戦略が参加・継続にいかに関連しているかを明らかにしたことを高く評価した。

それ以外でも、申請者も指摘しているが、地域組織への参加に関する研究は多いが、活動を継続していく要因を分析するこれまでの研究は希少であり、価値ある論文として評価できる。さらに、組織の凝集性を作り上げていく1つの要因である、地域組織の同質性と異質性を例にして、高齢者の参加・継続プロセスを組織戦略との関係で分析したことが評価できる。

本申請論文の成果は、高齢者が社会活動に参加・継続していく上で、参加・継続の過程を明らかにしただけでなく、地域組織は参加者の意識をもとに、どのような戦略が必要かを示すことができたといえる。

よって、本学位審査委員会は、申請論文が博士（老年学）の学位に相当することを、全員一致で認めた。

口頭審査要旨

口頭審査については、30分という時間で、本申請論文の内容を時間通りに、かつ丁寧に報告をした。具体的には、論文内容にそった発表であったが、論文の枠組みが明確であったことから、極めて明晰な報告となっていた。さらに、その後審査委員やその他の聴講された方々からの質問やコメントに対して適格に答えていた。その中でも、申請者は自らの研究の内容に加えて、本研究の独自性や、本研究から明らかになった今後の研究の方向についても適格に説明していた。

よって、口頭審査についても、本学位審査委員会は、申請論文を適格に説明できたこと

から、博士（老年学）の学位に相当することを、全員一致で確認した。全体を総合して審査員全員が合格と判定した。